

iPad を活用した活動報告書(魔法のじゅうたん)安来市立赤江小学校

～地域活用 番外編～

1. 基本情報

(ア) 報告者氏名：井上賞子

(イ) 報告書記録日：平成 25 年 2 月 28 日

2. 対象児

(ア) 対象群

- ・ iPad を学習や生活の中で活用することを検討している、子ども・保護者・支援者。

3. 活動目的

(ア) 当初の目的やねらい

- ・ iPadを使った新しい学習の方法を学ぶことで、学習機会を広げていく。
- ・ 参加者の興味関心を広げることで、将来に向けても有効な余暇活動につなげていく。
- ・ メールやテレビ電話などを使った新しいコミュニケーションの方法を学ぶことで、コミュニケーションの機会を広げていく。

(イ) 実施した期間：24 年 4 月から 25 年 2 月まで

(ウ) その活動の実施者：井上賞子

(エ) 実施者と対象群との関係：

○子ども・保護者

・ スタートした時は、かつて通級で指導した子ども達であったり、担任していた子ども達であったり、実施者が指導に関わってきた中・高生が中心だったが、現在は今まで直接面識がなかった子ども達が多くなってきている。

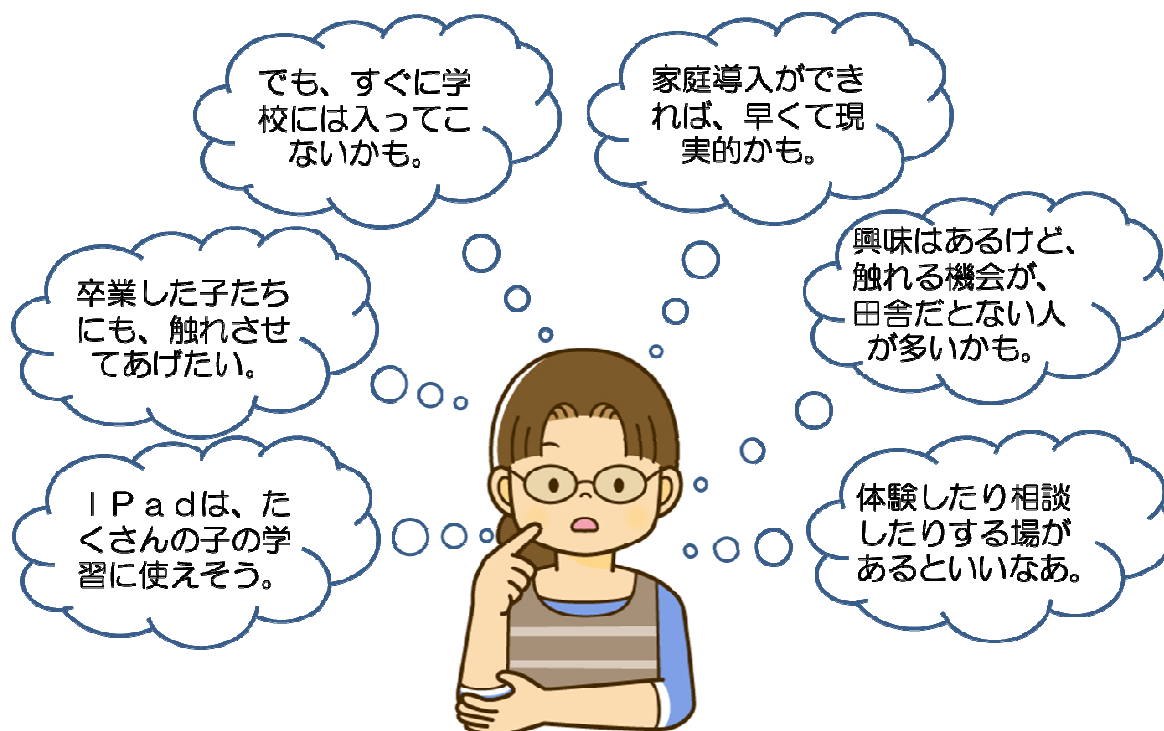
○支援者

- ・ 報道や口コミで活動を知っての参加申し込みがあるケースがほとんど。

4. 活動内容と対象群の変化

(ア) 事前の状況

- ・ 日常の中で iPad に触れる機会がない。
- ・ iPad を使った支援に興味はあるが、具体的に何ができるのかがわからない。
- ・ 購入を検討しているが、どこに行ったらいいのかわからない。



ないなら、はじめちゃえ！

(イ) 具体的内容

○使用したアプリ

☆メインの活動に関わって

- ・ facetime ・ 大辞林 ・ safari ・ i 暗記 ・ まめスケジュール ・ Check!
- ・ マンガる ・ マンガグリル ・ AnimeMaker Lite
- ・ SimpleMind+ (マインドマップ) ・ Dragon Dictation

☆アプリを使ったコミュニケーションゲームとして

- ・ ティッシュ
- ・ ピッタリ!
- ・ くじぼん
- ・ PicTack
- ・ くまぱん
- ・ チビ猫天国
- ・ ねこバランス
- ・ Tap It Black
- ・ 反射神経対決
- ・ パネルズジャンプ
- ・ 罰ゲーム危機一髪



○具体的な使用状況

☆基本のメニュー

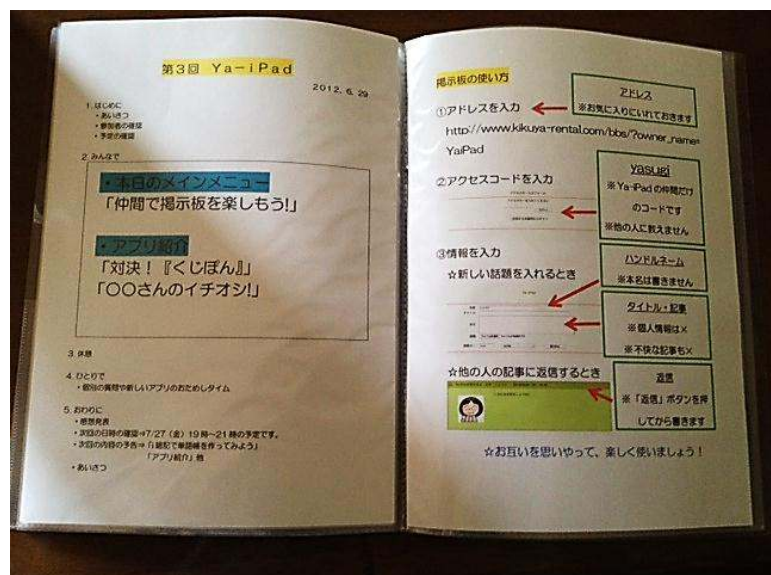
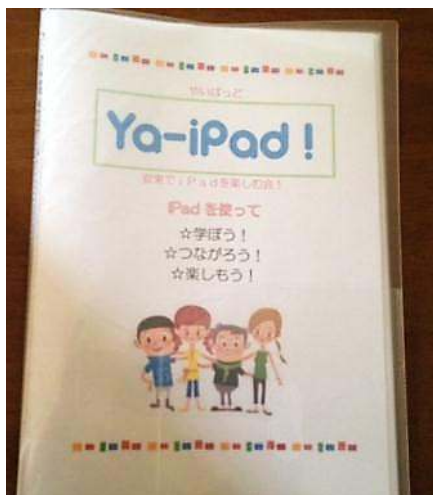
- 本日のメインメニュー
- 「〇〇を楽しもう」
- 「〇〇さんのイチオシアプリの紹介」
- 体験、質問コーナー
- 感想発表



☆メインメニュー

- 4月→FaceTime を楽しもう
- 5月→探そう、調べよう(辞書アプリを使おう)
- 6月→入室制限つき掲示板でつながろう(個人情報の管理をどうする?)
- 7月→単語帳を作ってみよう
- 8月→カレンダーとリマインダーアプリで予定を管理しよう
- 9月→ToDo リストを作ってみよう
- 10月→画像の加工を楽しもう(外部講師)
- 11月→4コマ漫画を作ってみよう
- 1月→mindmap で考えを整理しよう
- 2月→音声入力を体験しよう
- 3月は、そこまでの活動で出てきた課題からメニューを設定する予定

※子ども達に配布のファイル



イノウエサポートシステム

☆フェイスタイムを使ったサポート

- ・ ☆ iPad を使っていて、「困ったな」「どうするといいのかな」ということがあった時、Yo-iPad のみなさんは、イノウエサポートシステムを使うことができます。
- ・ ☆ フェイスタイムを使って、井上先生に質問することのできるシステムです。
- ・ ☆ 完全予約制です。下の手順に沿って、予約を入れてから使って下さい。
- ・ ☆ 金曜日・土曜日の夜7時～9時の間に、お願いします。



(ウ) 事後の変化

- ・ 口コミで参加者が増え続け、安来以外の地域での開催も始まっている。

活動の広がり

○要請を受けて、近隣市でも実施中

- ・ Yo-iPad → 米子でiPadを楽しむ会
9月以降、月一回実施
- ・ Ma-iPad → 松江でiPadを楽しむ会
10月以降、月一回実施
- ・ I-iPad → 出雲でiPadを楽しむ会
不定期で2回実施
- ・ Tor-iPad → 鳥取でiPadを楽しむ会
12月に実施、来年度年4回程度を計画中
- ・ Kur-iPad → 倉吉でiPadを楽しむ会
2月に実施、不定期での継続を計画中



安来・松江は子ども中心、他は支援者が中心

- ・スタッフとして参加してくれる教員が、出てきている。
- ・運営に関しても、安来以外は親の会や有志の教員で行っている。
- ・現在、米子で行っている Yo-iPad については、メインの活動を他の先生にお願いして、井上は個別の相談を受ける形にしている。
- ・30分ずつ2枠の個別相談は、希望がとても多く、毎回すぐに予約で埋まってしまう状況が続いている。

5. 報告者の気づきとエビデンス

(ア) 報告者の気づき

- ・正直、思いだけで見切り発車ではじめてしまった活動だったが、参加者数や相談の増加などの状況を見ていると、ニーズが高かったということに改めて感じている。
- ・体験してみると、子ども達は本当にあっという間に使い方を覚えてしまう。その姿を見て「こんな方法もあったんだ」と気づく保護者や支援者も多く、こうした機会は必要だと思った。
- ・アプリを入れただけでは「これが何に使えるのか」「どんな助けになるのか」の見通しが持てず、結局使えないということも少なくない。「こんな良さがある」「こんな使い方ができる」という具体的な活用を体験していくことが大切だと感じている。

つながりの広がり

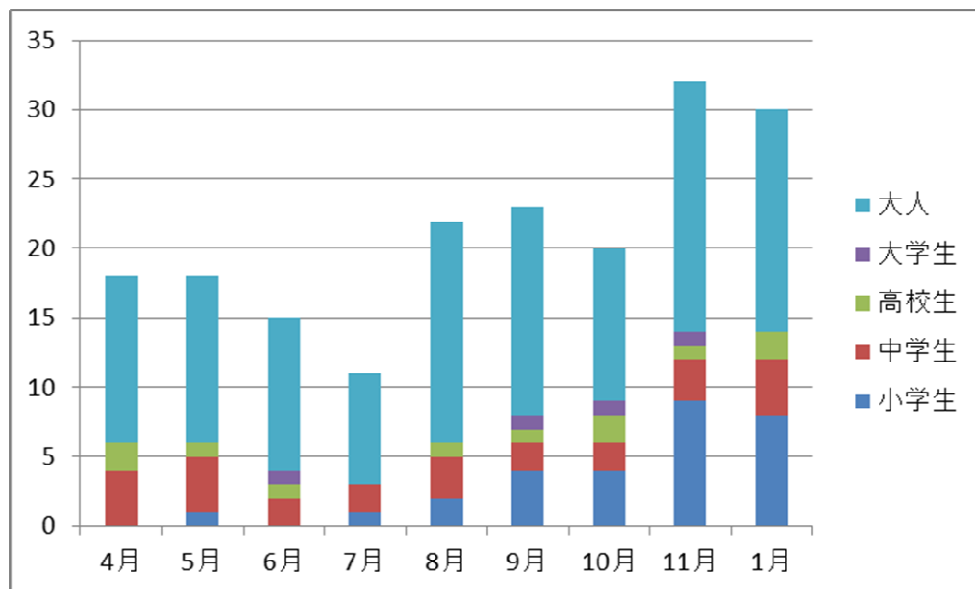
- ・全ての場所での参加者は、延べで300人を越し、とても一人では手が回らなくなってきた。
- ・会場の手配や連絡等は、安来以外は各地の先生方や親の会の支援を受けている。
- ・11月22日から、連絡と記録用のブログ「わがまちでiPadを楽しむ会」をスタートした。



<http://blogs.yahoo.co.jp/yaipad2>

(イ) 気づきに関するエビデンス

これまでの参加者(Ya-iPad)



4月からのべ189人の参加
松江市や米子市からの参加も増えてきている

※他の地域での同様の活動を含めると、300人を超える。

○実際に iPad を購入して学習や生活での活用が始まったケース数

- ・家庭購入→11 ケース
- ・支援者購入→12 ケース



(ウ) 活動において特徴的なエピソード

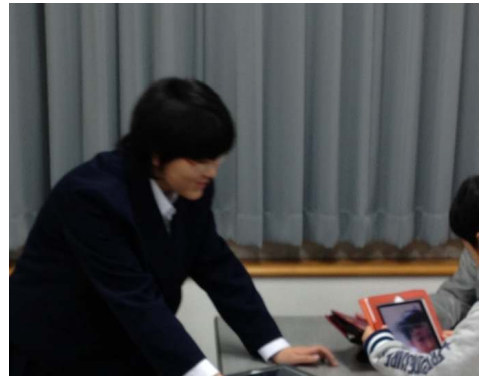
○アシスタントナナミン&ヒロリン

・もともとは参加者であった 2 名の児童・生徒が、iPad の操作にどんどん慣れて使いこなせるようになっていった結果、現在では「アシスタント」として、他の参加者の支援をする側にまわっている。

- ・操作に慣れていない大人や、指示を聞き逃してしまった子どもの参加者の様子を見なが

ら声をかけたり手伝ったりしている。

- ・時には「先生、今まだ前のところなので、もう少し待ってください」と進行に対しての声がけもしてくれる。
- ・とても優秀なアシストをしてくれるおかげで、新規の参加者が多い時も、スムーズに進行できるようになってきている。
- ・役割を果たし、感謝されることで、二人のアシスタントにとっても自己肯定感が支えられる時間になってきている。



○気持ちをマインドマップで整理して

- ・気持ちを整理することがとても苦手なお子さんが、マインドマップの会以降、日常的にそれを使いながら気持ちを整理したり伝えたりするようになったと、母から聞いた。
- ・先日も、進路について大きな決断をしなければいけない場面があり、うまく伝えられない中、本人から「マインドマップを使いたい」と申し出があり、項目を入れたり順序を入れ替えたりしながら、「今の気持ち」「これからしたいこと」「心配していること」「助けてほしいこと」などを整理して共有することができたようだ。

○多様な相談の場として

- ・支援者の参加も多いので、「就学前の不安を持っておられるケース」「家庭導入の希望がありながら機械や回線の準備への見通しが持てていないケース」など、様々なニーズに対して、メインの活動をしている隣の部屋で、相談を受けられる支援者がお話を伺うということも増えてきている。
- ・保護者同士の情報交換の場としても、機能してきている。

